

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2023-183100
(P2023-183100A)

(43)公開日 令和5年12月27日(2023.12.27)

(51)国際特許分類
B 4 3 K 23/00 (2006.01)

F I
B 4 3 K 23/00 2 0 0 M

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全13頁)

(21)出願番号	特願2022-96531(P2022-96531)	(71)出願人	000001351 コクヨ株式会社 大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番 1 号
(22)出願日	令和4年6月15日(2022.6.15)	(74)代理人	100085338 弁理士 赤澤 一博
		(72)発明者	田谷 佳織 大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番 1 号 コクヨ株式会社内

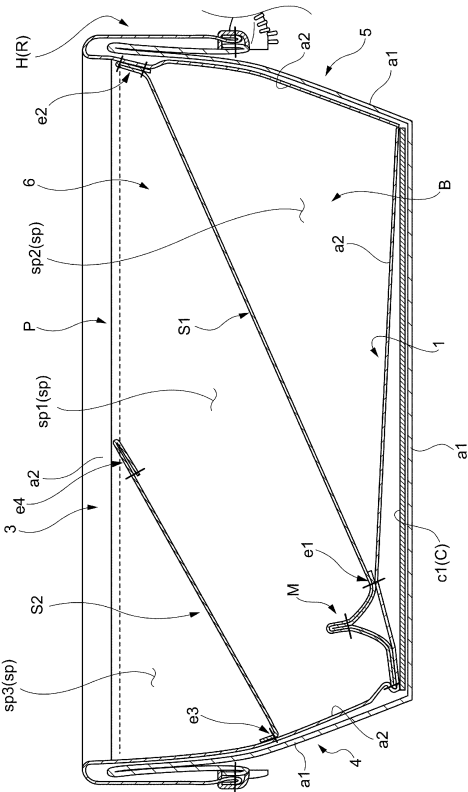
(54)【発明の名称】 収納ケース

(57)【要約】

【課題】収納空間にデッドスペースが生じ難いようにするための好適な構成を有した収納ケースを提供する。

【解決手段】収納ケースは、物品を収納し得る収納空間 $s\ p$ が形成された収納ケース本体 A と、収納ケース本体 A に傾斜するように設けられ収納空間 $s\ p$ を仕切る仕切り部である第一、第二の仕切り部 $S\ 1$ 、 $S\ 2$ とを備えたものである。収納ケース本体 A における少なくとも下部領域が、上側から下側に向かって幅狭になるように構成されているものとした。このようなものであれば、収納空間 $s\ p$ にデッドスペースが生じ難いようにするための好適な構成を有した収納ケースを提供し得るものとなる。

【選択図】図 7



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

物品を収納し得る収納空間が形成された収納ケース本体と、この収納ケース本体に傾斜するように設けられ前記収納空間を仕切る仕切り部とを備えた収納ケースであって、前記収納ケース本体における少なくとも下部領域が、上側から下側に向かって幅狭になるように構成されている収納ケース。

【請求項 2】

前記収納ケース本体が、可撓性のある素材により構成されている請求項 1 記載の収納ケース。

【請求項 3】

前記収納ケース本体の上部に、開閉可能に構成された開口部が設けられている請求項 1 記載の収納ケース。

【請求項 4】

前記収納ケース本体が、前記下部領域の上に設けられ当該下部領域の外側側面へ折り返し可能な上部領域を備えている請求項 1 記載の収納ケース。

【請求項 5】

前記仕切り部が、前記下部領域に設けられている請求項 4 記載の収納ケース。

【請求項 6】

前記収納ケース本体が、横長矩形状をなす底壁部分と、この底壁部分の前端部から立設された前壁部分と、前記底壁部分の後端部から立設された後壁部分と、前記底壁部分の左右両側端部から立設されるとともに前記前壁部分及び後壁部分の各側端部間を繋ぐ左右の側壁部分とを備えたものであり、

前記収納ケース本体が、正面視及び背面視において、上側から下側に向かって漸次幅狭になるように構成されたものであり、

前記仕切り部が、正面視及び背面視において、前記底壁部分に対して傾斜するように設けられたものである請求項 1 記載の収納ケース。

【請求項 7】

前記下部領域における前記前壁部分と前記後壁部分との間に、前記収納空間を前後方向に仕切る間仕切部分が設けられたものであり、

前記前壁部分と前記間仕切部分と間、又は、前記後壁部分と前記間仕切部分との間に、前記仕切り部が配設されている請求項 6 記載の収納ケース。

【請求項 8】

前記下部領域における前記前壁部分と前記後壁部分との間に、前記収納空間を前後方向に仕切る間仕切部分が設けられたものであり、

前記前壁部分と前記間仕切部分との間、又は、前記後壁部分と前記間仕切部分との間に、前記仕切り部を有しないポケット部が設けられている請求項 6 記載の収納ケース。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、種々の物品を収納し得る収納ケースに関する。

【背景技術】**【0002】**

従来から、物品を収納し得る収納空間が形成された収納ケース本体と、この収納ケース本体に傾斜するように設けられた仕切り部とを備えた収納ケースが知られている（例えば、特許文献 1 を参照）。

【0003】

この種の収納ケースは、収納ケース本体が上側から下側に向かって次第に横幅が広がる形状をなしていた。そのため、かかる構成のものでは、物品が配設され難く稼働度合の低いスペース（いわゆるデッドスペース）が生じやすいものとなっていた。

【先行技術文献】

10

20

30

40

50

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】実用新案登録第3112265号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

本発明は、以上のような事情に着目してなされたものであり、少なくとも、収納空間にデッドスペースが生じ難いようにするための好適な構成を有した収納ケースを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

すなわち、本発明は次の構成をなしている。

【0007】

請求項1に記載の発明は、物品を収納し得る収納空間が形成された収納ケース本体と、この収納ケース本体に傾斜するように設けられ前記収納空間を仕切る仕切り部とを備えた収納ケースであって、前記収納ケース本体における少なくとも下部領域が、上側から下側に向かって幅狭になるように構成されている収納ケースである。

【0008】

請求項2に記載の発明は、前記収納ケース本体が、可撓性のある素材により構成されている請求項1記載の収納ケースである。

【0009】

請求項3に記載の発明は、前記収納ケース本体の上部に、開閉可能に構成された開口部が設けられている請求項1記載の収納ケースである。

【0010】

請求項4に記載の発明は、前記収納ケース本体が、前記下部領域の上に設けられ当該下部領域の外側へ折り返し可能な上部領域を備えている請求項1記載の収納ケースである。

【0011】

請求項5に記載の発明は、前記仕切り部が、前記下部領域に設けられている請求項4記載の収納ケースである。

【0012】

請求項6に記載の発明は、前記収納ケース本体が、横長矩形状をなす底壁部分と、この底壁部分の前端部から立設された前壁部分と、前記底壁部分の後端部から立設された後壁部分と、前記底壁部分の左右両側端部から立設されるとともに前記前壁部分及び後壁部分の各側端部間を繋ぐ左右の側壁部分とを備えたものであり、前記収納ケース本体が、正面視及び背面視において、上側から下側に向かって漸次幅狭になるように構成されたものであり、前記仕切り部が、正面視及び背面視において、前記底壁部分に対して傾斜するように設けられたものである請求項1記載の収納ケースである。

【0013】

請求項7に記載の発明は、前記下部領域における前記前壁部分と前記後壁部分との間に、前記収納空間を前後方向に仕切る間仕切部分が設けられたものであり、前記前壁部分と前記間仕切部分と間、又は、前記後壁部分と前記間仕切部分との間に、前記仕切り部が配設されている請求項6記載の収納ケースである。

【0014】

請求項8に記載の発明は、前記下部領域における前記前壁部分と前記後壁部分との間に、前記収納空間を前後方向に仕切る間仕切部分が設けられたものであり、前記前壁部分と前記間仕切部分との間、又は、前記後壁部分と前記間仕切部分との間に、前記仕切り部を有しないポケット部が設けられている請求項6記載の収納ケースである。

【発明の効果】

【0015】

10

20

30

40

50

以上説明したように本発明によれば、少なくとも、収納空間にデッドスペースが生じ難いようにするための好適な構成を有した収納ケースを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 6 】

【図 1】本発明の一実施形態を示す正面図。

【図 2】同実施形態における底面図。

【図 3】同実施形態における左側面。

【図 4】同実施形態における右側面図。

【図 5】同実施形態における収納ケース本体の上部領域を折り返した状態を示す正面図。

【図 6】図 5 における X 方向矢視図。

10

【図 7】図 6 における Y - Y 線断面図。

【図 8】同実施形態における概略的な斜視図。

【図 9】同実施形態における概略的な斜視図。

【図 10】同実施形態における芯材の展開図。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 7 】

以下、本発明の一実施形態を、図 1 ~ 10 を参照して説明する。なお、本実施形態における左右方向、及び、前後方向の設定は説明の便宜上のものである。

【 0 0 1 8 】

この実施形態は、本発明を、筆記具 j 1、j 2・消しゴム j 3・転写具（いわゆるテープ糊・修正テープ）j 4・シャープペンシル芯ケース j 5・付箋 j 6 等の物品 J を収納し得る収納空間 s p が形成された収納ケースに適用したものである。

20

【 0 0 1 9 】

なお、収納空間 s p に収納される「物品 J」は、文房具類や電子情報記録用具に限られないのはもちろんのことである。また、「収納ケース」とは、鞆、バッグ、ポーチ（化粧ポーチ等）、ケース（工具ケース等）と称されるようなものを広く含む概念である。

【 0 0 2 0 】

収納ケースは、物品 J を収納し得る収納空間 s p が形成された収納ケース本体 A と、収納ケース本体 A に設けられ収納空間 s p を仕切る仕切り部である第一、第二の仕切り部 S 1、S 2 とを備えている。

30

【 0 0 2 1 】

また、収納ケースには、第一の仕切り部 S 1 の下方に収納部 B が設けられている。

【 0 0 2 2 】

以下、本実施形態の収納ケースについて詳述する。

【 0 0 2 3 】

< < 収納ケース本体 A > >

収納ケース本体 A は、可撓性のある素材により構成されている。より具体的に言えば、収納ケース本体 A は、布製の外装材 a 1 と、外装材 a 1 の内側に配された布製の内装材 a 2 と、外装材 a 1 と内装材 a 2 との間に部分的に配設された芯材 C とを含んで構成されたものである。収納ケース本体 A を構成する素材である外装材 a 1、内装材 a 2、及び、芯材 C は所定の部分において縫着されている。

40

【 0 0 2 4 】

収納ケース本体 A は、横長矩形状をなす底壁部分 1 と、底壁部分 1 の前端部から立設された前壁部分 2 と、底壁部分 1 の後端部から立設された後壁部分 3 と、底壁部分 1 の左右両側端部から立設されるとともに前壁部分 2 及び後壁部分 3 の各側端部間を繋ぐ左右の側壁部分 4、5 とを備えたものである。

【 0 0 2 5 】

前壁部分 2 及び後壁部分 3 は、正面視又は背面視において、略逆台形状をなしている。

【 0 0 2 6 】

収納ケース本体 A の上端部には、左右方向に延びるように設けられ止着具であるファス

50

ナ F によって開閉可能に構成された開口部 K が設けられている。

【 0 0 2 7 】

収納ケース本体 A は、その全体が、上側から下側に向かって幅狭になるように構成されている。収納ケース本体 A は、正面視又は背面視において、船形をなしている。収納ケース本体 A は、正面視又は背面視において、左右両側縁部が逆八の字状をなしている。収納ケース本体 A を構成する左右の側壁部分 4、5 は、正面視又は背面視において、上側から下側に向かって漸次相寄る方向に位置するように構成されている。

【 0 0 2 8 】

収納ケース本体 A は、下部領域 L と、下部領域 L の上に連続して設けられ下部領域 L の外面側へ折り返し可能な上部領域 H を備えている。

10

【 0 0 2 9 】

下部領域 L は、物品 J を収納し得る収納空間 s p の主要部を構成するものである。下部領域 L は、底壁部分 1 と、前壁部分 2 の下部分、後壁部分 3 の下部分、及び、左右の側壁部分 4、5 の下部分を主体に構成されている。

【 0 0 3 0 】

下部領域 L は、芯材 C により補強された構造をなしている。下部領域 L は、芯材 C を含んで構成されている。下部領域 L を構成する底壁部分 1 の略全域、前壁部分 2 の下部分、及び、後壁部分 3 の下部分には、合成樹脂により作られた板状をなす芯材 C が内装されている。下部領域 L を構成する左右の側壁部分 4、5 には、芯材 C が内装されていないものとなっている。

20

【 0 0 3 1 】

芯材 C は、下部領域 L の形態を安定させるためのものである。芯材 C は、下部領域 L を形成する外装材 a 1 と内装材 a 2 の間に配設されている。

【 0 0 3 2 】

芯材 C は、図 10 に示すように、底壁部分 1 を構成する底壁部分構成芯材部 c 1 と、底壁部分構成芯材部 c 1 の前端部に折曲線 s n を介して連設されてなり前壁部分 2 を構成する前壁部分構成芯材部 c 2 と、底壁部分構成芯材部 c 1 の後端部に折曲線 s n を介して連設されてなり後壁部分 3 を構成する後壁部分構成芯材部 c 3 とを備えたものである。

【 0 0 3 3 】

上部領域 H は、前壁部分 2 の上部分、後壁部分 3 の上部分、及び、左右の側壁部分 4、5 の上部分を主体に構成されている。上部領域 H には、芯材 C が内装されていないものとなっている。

30

【 0 0 3 4 】

上部領域 H は、図 1 ~ 4 に示すように、下部領域 L の上に連続して上方に延びた通常姿勢 (T) と、図 5 ~ 9 に示すように、基端部 (下部領域 L との境界部) において折り曲げられて下部領域 L の外面側に被さるように位置する折り返し姿勢 (R) とを採り得るものとなっている。

【 0 0 3 5 】

この実施形態では、下部領域 L における前壁部分 2 と後壁部分 3 との間には、収納空間 s p を前後方向に仕切る間仕切部分 6 が設けられている。間仕切部分 6 は、内装材 a 1 と同じ素材の布材によって構成されている。

40

【 0 0 3 6 】

間仕切部分 6 の左右両側端部は、左右の側壁部分 4、5 の内側に縫着されている。また、間仕切部分 6 の下端部は底壁部分 1 又は後壁部分 3 の下端部に連続するように設けられている。そして、収納ケース本体 A には、後壁部分 3 と間仕切部分 6 との間に、仕切り部を有しないポケット部 P が設けられている。ポケット P には、付箋 j 6 等の比較的薄い形態の物品 J が好適に収納されるようになっている。

【 0 0 3 7 】

< < 第一の仕切り部 S 1 > >

第一の仕切り部 S 1 は、収納ケース本体 A の下部領域 L に傾斜するように設けられてい

50

る。第一の仕切り部 S 1 は、帯状をなす布材により構成されている。

【 0 0 3 8 】

第一の仕切り部 S 1 は、正面視において、右側から左側に向かって漸次下方に位置するように傾斜した姿勢をなしている。第一の仕切り部 S 1 は、正面視及び背面視において、略水平姿勢をなす底壁部分 1 に対して傾斜するように設けられたものである。

【 0 0 3 9 】

この実施形態では、第一の仕切り部 S 1 は、収納ケース本体 A における対向関係にある壁部分間、すなわち、前壁部分 2 と間仕切部分 6 との間に配設されている。第一の仕切り部 S 1 の幅寸法（前後方向寸法）は、底壁部分 1 の幅寸法（前後方向寸法）と略同じかそれよりも若干短い寸法に設定されている。

10

【 0 0 4 0 】

第一の仕切り部 S 1 は、ハンモック状に設けられている。すなわち、第一の仕切り部 S 1 は、長手方向の両端部すなわち左右両端部 e 1、e 2（上下両端部）が収納ケース本体 A に対して縫着により取り付けられたものであるとともに短手方向の両端部すなわち前後両端部が収納ケース本体 A に対して取り付けられていないものとなっている。

【 0 0 4 1 】

この実施形態では、第一の仕切り部 S 1 の左端部 e 1（下端部）は、底壁部分 1 に縫着されており、第一の仕切り部 S 1 の右端部 e 2（上端部）は、右の側壁部分 5 に縫着されている。

【 0 0 4 2 】

第一の仕切り部 S 1 の前端部 f 1 及び後端部 f 2 は、収納ケース本体 A を構成する対向関係にある壁部分に対して縫着されていないものとなっている。換言すれば、収納ケースは、第一の仕切り部 S 1 と前壁部分 2 との間、及び、第一の仕切り部 S 1 と間仕切部分 6 との間に、互いに連結されていない前後の非連結部 Q f、Q r が設けられている。

20

【 0 0 4 3 】

収納ケースは、第一の仕切り部 S 1 よりも上に位置する中間部の収納空間部分 s p 1 と第一の仕切り部 S 1 よりも下に位置する下側部の収納空間部分 s p 2（すなわち収納部 B）との間を、前の非連結部 Q f 又は後の非連結部 Q r を通じて物品 J を移動させることが可能な構成を有している。

【 0 0 4 4 】

また、第一の仕切り部 S 1 における下端部 e 1 近傍には、第一の仕切り部 S 1 の長手方向に対して交差する方向である上方向に突出する突出部 M が設けられている。突出部 M は、第一の仕切り部 S 1 の長手方向に対して略直交する方向（中間部の収納空間部分 s p 1 の方向）に片状に突出したものである。突出部 M は、第一の仕切り部 S 1 が形成される帯状の布材と同じ布材によって構成されている。

30

【 0 0 4 5 】

突出部 M は、第一の仕切り部 S 1 の下端部 e 1 に隣設されている。突出部 M には、図 9 の例に示すように、第一の仕切り部 S 1 の上面側に凭れ置かれた筆記具 j 1 の下端部が当接し、当該筆記具 j 1 がそれ以上に下降することが好適に抑制されるようになっている。

【 0 0 4 6 】

すなわち、収納ケースには、第一の仕切り部 S 1 における下端部 e 1 に突出部 M が隣設されているため、収納空間 s p を構成する中間の収納空間部分 s p 1 に収納された複数本の筆記具 j 1、j 2 の内、突出部 M によって下降が規制された特定の筆記具 j 1 の位置と、突出部 M によって下降が規制されない他の筆記具 j 2 の位置とを異ならせることができるものとなっている。

40

【 0 0 4 7 】

つまり、突出部 M は、第一の仕切り部 S の上側（中間部の収納空間部分 s p 1）に収容された特定の筆記具 j 1 の下端部を位置決めすることにより、複数本の筆記具 j 1、j 2 の上部を、使用者に対して視認し易くなるようにずらして位置させることに資するものとなっている。

50

【 0 0 4 8 】

収納ケースには、下部領域 L の対角線に略沿うようにして、斜めに延びてなる第一の仕切り部 S 1 が設けられている。このため、収納ケースは、第一の仕切り部 S 1 の上に、筆記具 j 1、j 2 のような比較的長尺の物品 J を斜め姿勢に案内しつつ中間部の収納空間部分 s p 1 に好適に収納し得るものとなっている。

【 0 0 4 9 】

< < 第二の仕切り部 S 2 > >

第二の仕切り部 S 2 は、収納ケース本体 A の下部領域 L に傾斜するように設けられたものである。第二の仕切り部 S 2 は、帯状をなす布材により構成されている。第二の仕切り部 S 2 は、正面視における下部領域 L の左上部分に傾斜するように設けられている。第二の仕切り部 S 2 の上には、収納空間 s p を構成する上側部の収納空間部分 s p 3 が形成されている。

10

【 0 0 5 0 】

第二の仕切り部 S 2 は、正面視において、右側から左側に向かって漸次下方に位置するように傾斜した姿勢をなしている。第二の仕切り部 S 2 は、第一の仕切り部 S 1 と略同じように、正面視及び背面視において、略水平姿勢をなす底壁部分 1 に対して傾斜するように設けられたものである。

【 0 0 5 1 】

第二の仕切り部 S 2 は、第一の仕切り部 S 1 よりも長手寸法が短く設定されている。第二の仕切り部 S 2 の右端部すなわち上端部 e 4 は、第一の仕切り部 S 1 の上端部 e 2 と略同じ高さ位置に設けられているが、第二の仕切り部 S 2 の左端部すなわち下端部 e 3 は、第一の仕切り部 S 1 の下端部 e 1 よりも上に位置したものとなっている。

20

【 0 0 5 2 】

この実施形態では、第二の仕切り部 S 2 は、収納ケース本体 A における対向関係にある壁部分間、すなわち、前壁部分 2 と間仕切部分 6 との間に配設されている。第二の仕切り部 S 2 の幅寸法（前後方向寸法）は、底壁部分 1 の幅寸法（前後方向寸法）と略同じかそれよりも若干短い寸法に設定されている。

【 0 0 5 3 】

第二の仕切り部 S 2 は、長手方向の下端部すなわち左端部 e 3 が収納ケース本体 A における左の側壁部分 4 に対して縫着により取り付けられたものであるとともに短手方向の両端部すなわち前後両端部 f 3、f 4 が前壁部分 2 と間仕切部分 6 に対して縫着により取り付けられている。第二の仕切り部 S 2 の上端部すなわち右端部 e 4 は自由端になっている。

30

【 0 0 5 4 】

なお、第二の仕切り部 S 2 の上、すなわち、上側部の収納空間部分 s p 3 には、図 9 の例に示されるように、消しゴム j 2 等の比較的小型の物品 J が好適に収納されるものとなっている。

【 0 0 5 5 】

< < 収納部 B > >

収納部 B は、第一の仕切り部 S 1 の下に収納空間 s p を構成する下側部の収納空間部分 s p 2 を形成したものである。収納部 B は、収納ケース本体 A の下部領域 L を構成する壁部分と第一の仕切り部 S 1 とによって囲われてなる室状のものである。収納部 B は、ハンモック状をなす第一の仕切り部 S 1 によって上側が覆われたものとなっている。

40

【 0 0 5 6 】

収納部 B は、収納ケース本体 A における下部領域 L を構成する底壁部分 1 の一部、前壁部分 2 の一部、後壁部分 3 の一部、及び、右の側壁部分 5 の一部と、第一の仕切り部 S 1 とによって囲われている。

【 0 0 5 7 】

収納部 B は、第一の仕切り部 S 1 と収納ケース本体 A との間に設けられた前後の非連結部 Q f、Q r を通じて、収納ケース本体 A の内部からアクセス可能に設けられている。

50

【 0 0 5 8 】

すなわち、収納ケースは、第一の仕切り部 S 1 の前端部 f 1 と前壁部分 2 との間に設けられた前の非連結部 Q f、及び、第一の仕切り部 S 1 の後端部 f 2 と間仕切部分 6 との間に設けられた後の非連結部 Q r を通じて、収納ケース本体 A の内部から収納部 B に収納された物品 J を出し入れすることができるように構成されている。

【 0 0 5 9 】

収納部 B は、平面視において、第一の仕切り部 S 1 によって覆い隠されたものとなっている。このため、図 9 の例に示されるように、収納部 B には、使用頻度の比較的少ない物品 J（例えば、転写具 j 4）やセキュリティ性の比較的高い物品 J（例えば、U S B メモリー等の記録媒体）を収納させるのに好適なものとなっている。

10

【 0 0 6 0 】

以上説明したように、本実施形態に係る収納ケースは、物品 J を収納し得る収納空間 s p が形成された収納ケース本体 A と、収納ケース本体 A に傾斜するように設けられ収納空間 s p を仕切る仕切り部である第一、第二の仕切り部 S 1、S 2 とを備えたものである。そして、収納ケース本体 A が、上側から下側に向かって幅狭になるように構成されている。

【 0 0 6 1 】

このため、この実施形態であれば、収納空間 s p にデッドスペースが生じ難いようにするための好適な構成を有した収納ケースを提供し得るものとなる。

【 0 0 6 2 】

つまり、収納ケース本体 A が、上側から下側に向かって幅狭になるように構成されているため、当該収納ケース本体 A により形成された収納空間 s p における下部の角部分に、物品 J を配設し難くなるような形態部分が生じ難いものとなっている。

20

【 0 0 6 3 】

加えて、収納ケース本体 A は、上側から下側に向かって幅狭になるように構成されているものであるため、全体として、鞆等に収容された場合でも嵩張りが抑制され得るものとなっている。

【 0 0 6 4 】

収納ケース本体 A が、可撓性のある素材により構成されている。

【 0 0 6 5 】

このため、収納ケース本体 A は、収納されるべき物品 J との衝突に伴う大きな音が生じ難いだけでなく、使用者の手触り感や使い勝手に優れた収納ケース本体 A が実現されたものとなっている。

30

【 0 0 6 6 】

収納ケース本体 A の上部に、開閉可能に構成された開口部 K が設けられている。

【 0 0 6 7 】

このため、開閉可能な開口部 K を通じて収納ケース本体 A に対して物品 J を好適に出し入れすることができるようになっている。

【 0 0 6 8 】

収納ケース本体 A が、下部領域 L の上に設けられ当該下部領域 L の外面側へ折り返し可能な上部領域 H を備えている。

40

【 0 0 6 9 】

このため、上部領域 H を下部領域 L の外面側へ折り返すことにより、下部領域 L に収容された物品 J の視認性や手指の挿入し易さに優れた収納ケース本体 A を構成し得るものとなる。

【 0 0 7 0 】

また、上側から下側に向かって幅狭になるように構成されている収納ケース本体 A における上部領域 H を下部領域 L の外面側へ折り返すことにより、強度が向上するものとなり、収納ケース本体 A の形態が安定し得るものとなっている。

【 0 0 7 1 】

50

特にこの実施形態では、上部領域 H が下部領域 L の外面側に折り返されている場合に、左右の側壁部分 4、5 における下部領域 L を構成する部位と、左右の側壁部分 4、5 における上部領域 H を構成する部位との間に隙間が形成され易いものとなっている。このため、下部領域 L と上部領域 H との間の隙間に、手指を挿入し易いものとなり、持ち運びや天板等の載置面上の移動を容易に行えるものとなっている。

【0072】

第一、第二の仕切り部 S 1、S 2 が、下部領域 L に設けられている。

【0073】

このため、下部領域 L に収納された種々の物品 J は、第一、第二の仕切り部 S 1、S 2 を利用して使用者からの視認性に優れた位置に配設され得るものとなっている。

10

【0074】

収納ケース本体 A が、横長矩形状をなす底壁部分 1 と、底壁部分 1 の前端部から立設された前壁部分 2 と、底壁部分 1 の後端部から立設された後壁部分 3 と、底壁部分 1 の左右両側端部から立設されるとともに前壁部分 2 及び後壁部分 3 の各側端部間を繋ぐ左右の側壁部分 4、5 とを備えたものである。そして、収納ケース本体 A が、正面視及び背面視において、上側から下側に向かって漸次幅狭になるように構成されたものであり、第一、第二の仕切り部 S 1、S 2 が、正面視及び背面視において、底壁部分 1 に対して傾斜するように設けられたものである。

【0075】

このため、収納空間 s p にデッドスペースが生じ難いようにするための好適な構成を有した収納ケースを提供し得るものとなる。また、底壁部分 1 に対して傾斜するように第一、第二の仕切り部 S 1、S 2 が設けられているため、収納ケース本体 A と協働して物品 J を収納空間 s p に効率よく収納し得るものとなっている。

20

【0076】

下部領域 L における前壁部分 2 と後壁部分 3 との間に、収納空間 s p を前後方向に仕切る間仕切部分 6 が設けられたものである。そして、前壁部分 2 と間仕切部分 6 との間に、第一、第二の仕切り部 S 1、S 2 が配設されている。

【0077】

このため、前壁部分 2 と間仕切部分 6 との間に、物品 J の整然とした収納に資する第一、第二の仕切り部 S 1、S 2 が好適に配されたものとなっている。

30

【0078】

下部領域 L における前壁部分 2 と後壁部分 3 との間に、収納空間 s p を前後方向に仕切る間仕切部分 6 が設けられたものである。そして、後壁部分 3 と間仕切部分 6 との間に、仕切り部を有しないポケット部 P が設けられている。

【0079】

このため、ポケット部 P を利用して、種々の物品 J を好適に収容し得るものとなっている。

【0080】

なお、本発明は、以上に詳述した実施形態に限られるものではない。

【0081】

収納ケースは、収納ケース本体における少なくとも下部領域が、上側から下側に向かって幅狭になるように構成されているものであればよく、その具体的な態様は上述した実施形態に示されたものに限られない。

40

【0082】

収納ケース本体の上部領域が、上側から下側に向かって幅狭になるように構成されていないものであってもよい。

【0083】

収納ケース本体における「上側から下側に向かって幅狭」になる構成は、上述したような漸次幅狭になるものに限られるものではない。例えば、収納ケース本体が上側から下側に向かって階段状に幅狭に構成されたものであってもよい。例えば、収納ケース本体が、

50

傾斜した側壁部分に基づいて下方に向かって漸次幅狭になる部分、及び、略鉛直方向に延びた側壁部分に基づいて下方に向かって漸次幅狭にならない部分を交互に設けた構成のものであってもよい。

【 0 0 8 4 】

収納部は、収納ケース本体の外部からアクセス可能に設けられたものであってもよい。すなわち、収納ケースは、収納ケース本体を構成する前壁部分、後壁部分、左右の側壁部分、又は、底壁部分に、収納部に対してアクセス可能な開口部を設けた構成のものであってもよい。なお、収納ケース本体の外部から収納部に対してアクセス可能な開口部を設けた場合には、ファスナやスナップボタン等の止着具を使用して閉止状態を好適に維持し得るように構成されることが望ましい。

10

【 0 0 8 5 】

収納部は、内部に被収納物を予め収納させたものであり、且つ、アクセス不能に設けられたものであってもよい。すなわち、収納部は、収納部に対して被収納物を出し入れすることができないように構成されたものであってもよい。このような収納部に対して予め収納させた被収納物としては、例えば、マグネットやスピーカー等を挙げることができる。

【 0 0 8 6 】

収納ケース本体は、外装材と、内装材とを含んで構成されたものに限られるものではなく、単一又は複数の布材により構成されたものであってもよい。

【 0 0 8 7 】

収納ケース本体は、間仕切部分が設けられていない構成のものであってもよい。換言すれば、収納ケース本体にポケット部が設けられていない構成のものであってもよい。

20

【 0 0 8 8 】

仕切り部の配設箇所は配設される数や傾斜方向は、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で適宜設定し得るものであることは言うまでもない。

【 0 0 8 9 】

仕切り部は、収納ケース本体に一つだけ設けられたものであってもよいし、二以上の複数設けられたものであってもよい。

【 0 0 9 0 】

仕切り部は、長手方向両端部と短手方向の一端部だけが収納ケース本体に対して取り付けられた構成のものであってもよいし、短手方向両端部だけが収納ケース本体に対して取り付けられた構成のものであってもよい。

30

【 0 0 9 1 】

仕切り部における短手方向の一端部又は両端部が、マグネットや面ファスナ等の止着具を利用して収納ケース本体に対して着脱可能に構成されたものであってもよい。

【 0 0 9 2 】

その他、各部の具体的構成についても上記実施形態に限られるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

【 符号の説明 】

【 0 0 9 3 】

40

A ... 収納ケース本体

S 1 ... 第一の仕切り部（仕切り部）

S 2 ... 第二の仕切り部（仕切り部）

B ... 収納部

L ... 下部領域

H ... 上部領域

1 ... 底壁部分

2 ... 前壁部分

3 ... 後壁部分

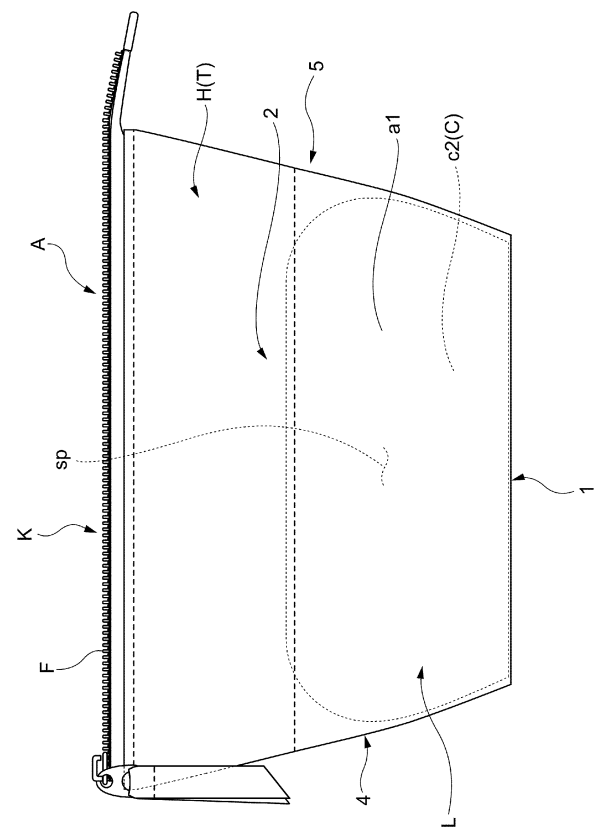
4 ... 左の側壁部分

50

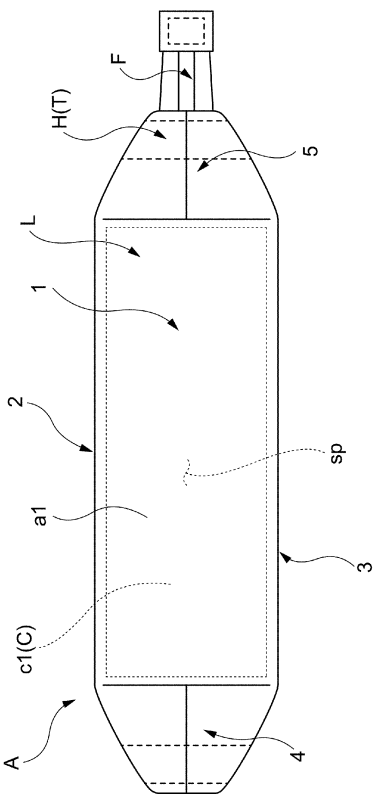
5 ... 右の側壁部分
6 ... 間仕切部分
s p ... 収納空間

【 図 面 】

【 図 1 】



【 図 2 】



10

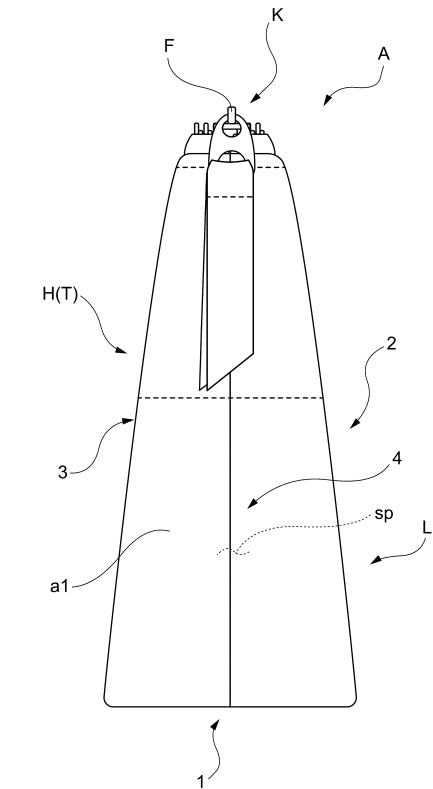
20

30

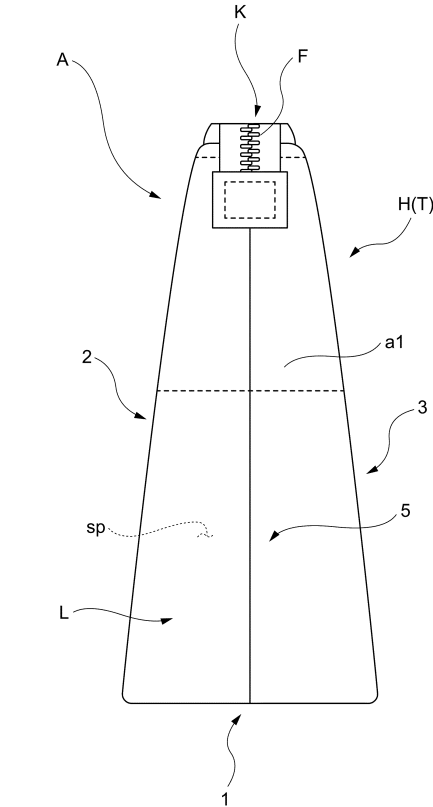
40

50

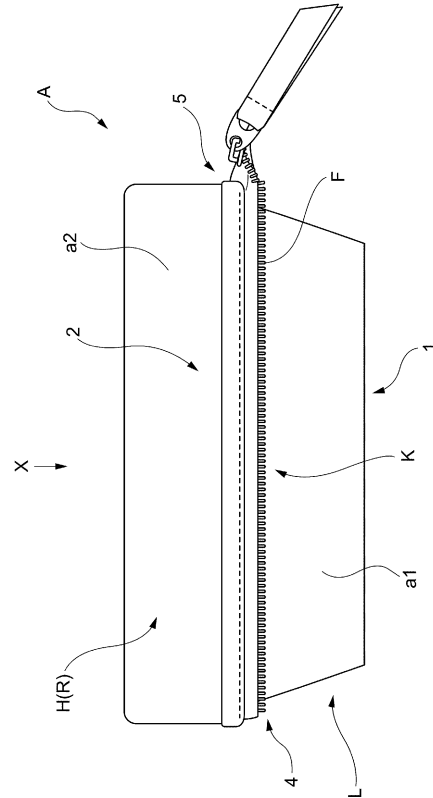
【 図 3 】



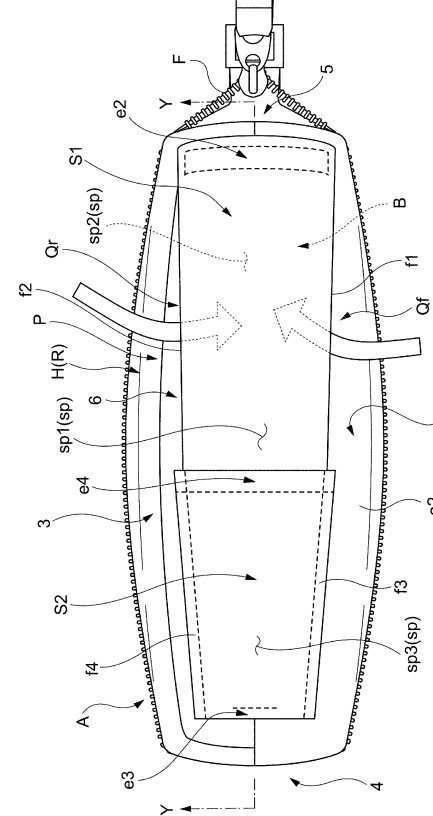
【 図 4 】



【 図 5 】



【 図 6 】



10

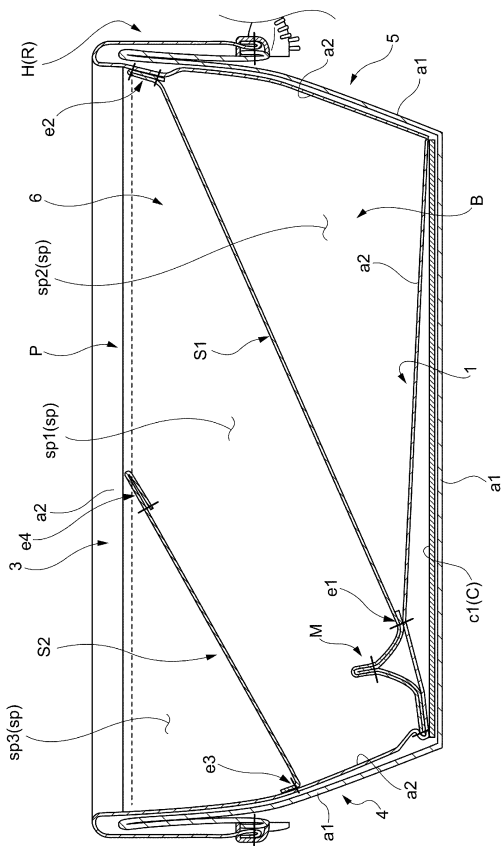
20

30

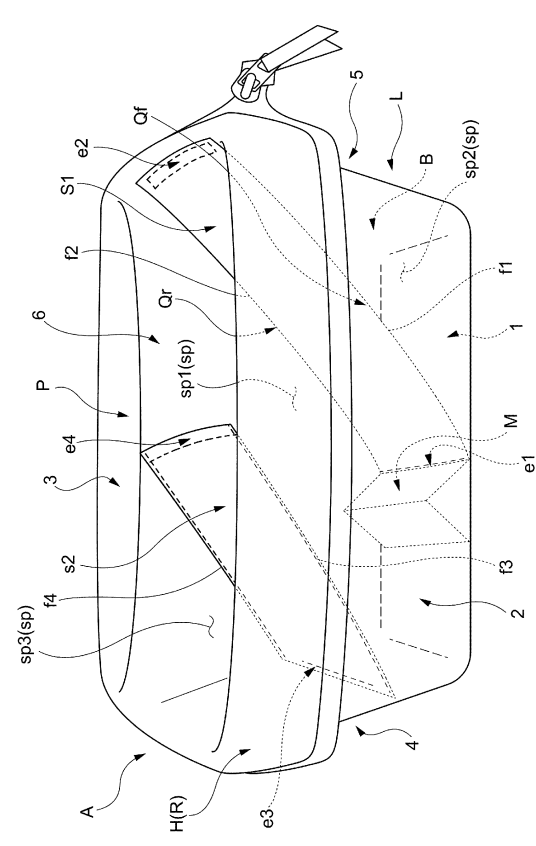
40

50

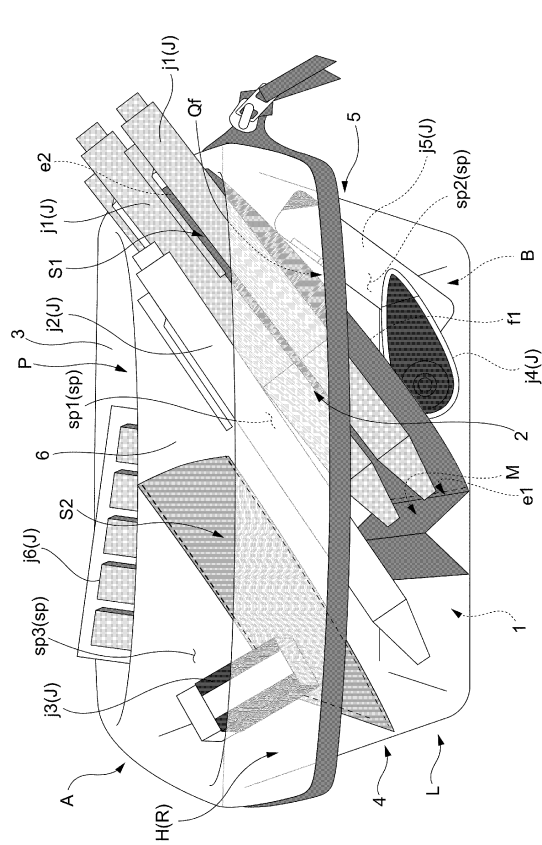
【 図 7 】



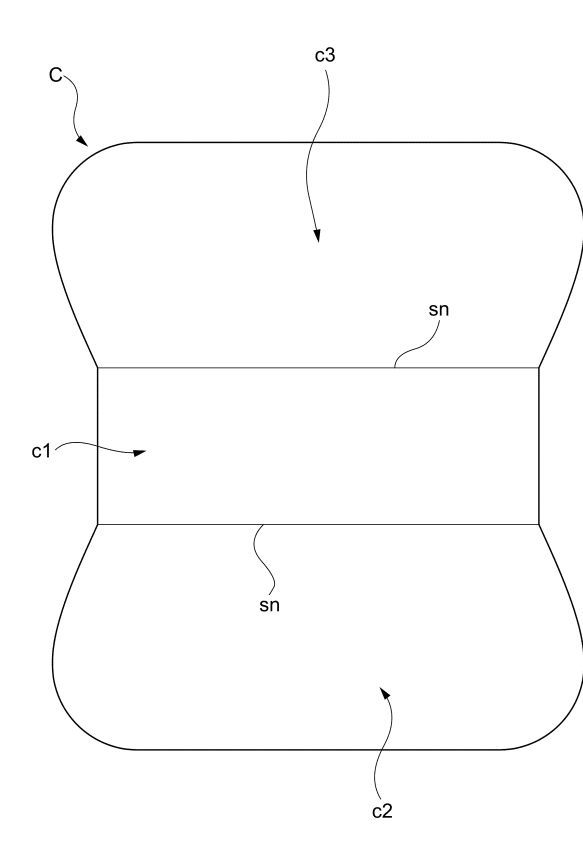
【 図 8 】



【 図 9 】



【 図 10 】



10

20

30

40

50